

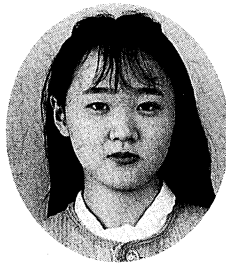
登山の帰りにカシミール方面に行きたいと大使館の人に相談したところ、大変な紛争地帯であり、旅行などともないかと厳しく拒否されてしまった。先日のテレビでは、ヒンズー教徒によるイスラム寺院の襲撃、破壊が報じられ、その対立は深刻さを増し国内全土に波及しかねな

い状況とか、登山の合間にかいま見た宗教は、魂の安らぎを説きながら懐には異教徒を受け入れない双刃の剣を隠し持っているものと感じた。来年のヒマラヤ登山の準備に追われながら何とか紛争の沈静化を願っている昨今である。

(県立会津工業高等学校教諭)

あす 明日への道しるべ

高橋 真紀子



「私、新採用なんです。」—この言葉の有効期間は一年間。そして、その満了となる日が刻一刻と近づいてきている。今では自分自身でも新鮮味が薄れてきてしまった言葉ではあるが、ようやく一年が経過するといううれしさよりも、この言葉を使えなくなってしまうということに対する不安の方が強いように感じる。

「Time flies」あつという間に過ぎ去った一年。自分自身何をし、何を残してきただろうか。仕事上やむを得ないことかもしれないが、仕事に追いまわされて、何も考えずになんとなく自分自身がここまで来てしまったような気がする。

昨年四月教育庁総務課に採用され

てから今日まで、仕事を覚えるのに必死で、見通しもなく、余裕もなく、毎日が新しいことはかりで、目まぐるしいほどの変化に満ちていたような気がする。勤務して間もない頃は、電話のベルが鳴るたびにドキッと、恐る恐る用件を聞くが、案の定、相手が何を言っているのかよく分からない。机の上もどんだん書類がたまってきてどう処理していいのかと途方にくれるばかり。そんな時、先輩が忙しい合間をぬって一緒にたまってたまりたまった机の上の書類を処理してくれた時は、先輩が「神様」のように思えた。その度に、一刻も早く「県職員」になるんだと心に誓った。

今の私にとって、生活の基本は仕事。そして私のこれからの人生は、県職員を志したときから、大好きなふるさと福島県のために全力を尽くすことに方向づけられている。だからこそ、何か自分の能力いっぱいのことを、綿々と流れ続け、決して絶えることのない「時間」の中で、精一杯試してみたい。時間に流されてしまわないよう、時間というものの自己管理をしながら。

一日二十四時間。食事・睡眠など義務的ともいえることに十時間、仕事に十時間費やすとすると自己管理できる自分のための時間は四時間。年間にすると約千五百時間もの時間。私は、この自分自身で管理することができる時間を、「職業人」である自分を実現するための時間として、有効に使っていかなければならないと考えている。そして、今は、この時間を二つのことに挑戦するための時間にしたいたいと思っている。

一つは、行政職員として当然向きまえておかなければならない行政法・法というものの考え方について学んでみたいということ。そしてもう一つは、常に心身をリフレッシュさせ、英気を養い、仕事への活力を見いだすため、好きなスポーツや旅行などを思い切り楽しんでみるという

うこと。

この一年は、その時その時の仕事をかたづけただけで精一杯だった私だけでも、これからは仕事の中で自分らしさを出していけるように、自分自身をもっともつと成長させていきたい。

新採用職員を卒業するのに当たり、仕事に対して自分の信念と責任感を持てるよう、これまで経験したことを生かしていくことはもちろん、これから出会ういろいろなことを大切に、そして自分らしくエレガントに生き、いつまでも輝き続けたい。

(県教育庁総務課主事)

